

会津会々報



第129号

会津会々報

令和五年七月発行

第百二十九号

<目次>

会津会々報

第129号・令和5(2023)年7月発行



フォトプラザ

巻頭言 会長就任にあたりまして
保科正之公没後三百五十年
郡長正公百五十二回忌とみやこ町(旧豊津町)との
友好交流について
先祖の歴史
会津白虎隊の出陣の地と終焉の地
記念碑設置と洞門くぐり
和歌山県御坊と会津のつながり
―山川浩(旧名大蔵)、紀州落ちのその後―
私のふるさと〜会津坂下町
會津藩家老 田中家子孫としての使命
山川健次郎先生による野村左兵衛についての原稿と
会津藩校日新館の展示について
私のファミリーヒストリー 〽先祖様を探して〽
祖父が残してくれたもの その一「二の字岩」
地方の人口流出について考える
―福島県高校生の進路意識調査から会津を見る
只見線全線開通おめでとうございます。〽
古写真で辿る山川健次郎の足跡

石山大遠	景遠野	田石遠	飯沼	渡宮	林町
綿内林藤	山山村	中綿藤	沼	辺森	野
崇経素	千由紀	玄崇由	一	南泰	健英
志則子健	春美子	亮志紀	元	千弘	幸明
95 80 75 68	66 56 50	42 39 33	28	26 18	16 12

会津白虎隊の出陣の地と終焉の地 記念碑設置と洞門くぐり

飯沼 一元

一 はじめに

白虎隊の会の設立は平成二十二(二〇一〇)年四月で、白虎隊の「義」を後世に伝えることを目的として、白虎隊ゆかりの記念碑を全国に設置してきました。

白虎隊が出陣したのは慶応四(一八六八)年八月二十二日午前十時頃で、飯盛山で自刃したのは翌二十三日の午前なので僅か一日の出来事でした。

飯盛山で自刃した白虎隊の行動については、諸説がありますが、出陣の地と終焉の地については異説はありません。そこで、以前から出陣と終焉の地の記念碑を設置したいと検討してきましたが、諸般の事情で実現できませんでした。出陣は、旧滝沢本陣跡なので本来はこの地に碑を造りたかったのですが、国指定の重要文化財のためできません。

二 出陣の地と終焉の地説明板

慶応四(一八六八)年八月二十三日、会津藩白虎士中一番隊・二番隊は藩主の護衛として滝沢本陣に出陣しました。昼頃、十六橋方面から援軍要請があり、松平容保公から隊長日向内記率いる士中二番隊三十七名に対して出撃命令が出され、戸ノ口原に向け出陣しました。

滝沢街道を経て強清水の東側の菰土山(こもつちやま)に午後四時頃に到着、一隊はここで塹壕を掘り夜営しました。翌二十三日早朝、隊長が戻らないという不測の事態に遭遇しましたが、一隊は二つに分かれ戸ノ口原にて新政府軍と交戦しました。しかし、人数と兵器の圧倒的な差により、退却を余儀なくされました。



図1 戸ノ口堰洞門入口

篠田隊十六名は帰城を目指しましたが、途中で道を間違え滝沢峠下で敵と遭遇し、撃ち合いとなり、一人が負傷したため、戸ノ口堰・飯盛山弁天洞窟に入りました。彼らにとって付近は遊び場として衆知であり、洞窟をくぐり飯盛山に辿り着きました。飯盛山の自刃地から鶴ヶ城方面を見ると城下は砲煙に包まれていました。

一同はここで、帰城か玉砕かを巡って激論を戦わしました。しばしの後、隊長代行の篠田儀三郎が「武士の自分を明らかにする」として自刃を提案。かくして一同列座し、

鶴ヶ城に向かい遙拝訣別の意を表し、午前十一時頃、従容として皆自刃しました。

白虎隊の自刃理由は「城が落ちたと誤認して」が通説とされていますが、これは誤解。激論など戦わす必要がないからです。会津藩は他のどの藩にも増して朝廷に忠誠をつくしました。それが、「朝敵・国賊」という汚名を着せられ滅ぼされました。その理不尽に対する潔白の証として、白虎隊は自刃したのです。

なお、白虎隊士の殉難忠節に対し松平容保公が詠まれた左記の弔歌を説明板に添えました。

幾人の涙は石にそそぐとも

その名は世々に朽じとぞ思う

源 容保

三 説明板の設置と序幕

白虎隊の会では令和四年九月二十二日に戸ノ口堰入口の会津若松市水道局の敷地にある鉄柵にこれを記念する説明板を設置し、除幕式を実施しました。

この時期は台風シーズンなので雨具や防寒具・長靴を用意しての参加でしたが、きわどく好天に恵まれ、天の味方を感じました。参加者は約三十名で地元関係者の他に、遠くは岡山・京都・東京などから集まりました。



図2 会津白虎隊出陣の地と終焉の地説明板

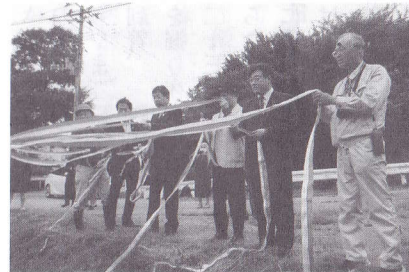


図3 説明板除幕



図4 説明板除幕後の記念撮影

四 戸ノ口堰

地元からは室井照平市長・小熊慎司・菅家一郎衆議院議員・目黒章三郎元会津若松市議会議長・石田明夫白虎隊の会理事・森川敬寿会津支部長らが参加されました。

戸ノ口堰は今から約四百年前に八田野村（現在の河沼郡河東町八田野）の肝煎、内蔵之助が、村に猪苗代湖から水を引いて開墾したいと考え、時の藩主・蒲生忠郷公に願いで、開削に取りかかったというのが起源。当初は藩で工事が行われましたが、財政難のため中断。その後、内蔵之助は自分の私財を投げ打ち二万人の人工を使い、蟻塚まで開削。しかし、内蔵之助も資金が枯渇して中止。再び当時の藩主・加藤明成公に願いで、工事は再開、第一期、第二期、第三期工事を経て第四期工事で会津若松に至りました。当時の水路は猪苗代湖から会津若松まで約三十キロあり、一六九三年には八田野堰から戸ノ口堰に改名されました。それから四四年以上経った一八三五年、時の藩主・松平容敬公が会津藩から五万人を集めて戸ノ口堰の大改修を施行し、飯盛山に抜ける洞窟約一七〇メートルを完成させました。

苦節四百年、猪苗代湖の水は会津若松に引かれ農業用の灌漑や養殖漁業の他発電にも生かされ地域に無くてはなら

ない存在となっています。

五 洞門くぐり

白虎隊士が「どのような気持ちでこの洞門をくぐり抜けたのか？」の一端を体感するため式典終了後洞門くぐりを実施しました。戸ノ口堰洞門は長さが約一七〇メートルあり途中で曲がっているため、中は真っ暗に近い。水量は多く大人の腰まであります。洞門くぐりのためには水門を閉め、時間をかけて水量を減らす必要があります。また、参加者は長靴に懐中電灯が必要となります。洞門入口で石田



図5 戸ノ口堰洞門の説明



図6 戸ノ口堰洞門くぐり



図7 福島民報掲載記事

明夫さんの説明を聞きながら、慎重に足を運びました。テレビ局のカメラも同行し、中はなかなかの賑わい。

白虎隊士がこの洞門に入った理由は永瀬雄治が腰を撃たれて負傷したからです。親友の林八十治と野村駒四郎が肩を貸して、永瀬を励ましながら進んだことでしょう。先頭は篠田儀三郎、しんがりには最年少の飯沼貞吉かも知れませんが、中間点を過ぎると前方から光が見えます。

出口に辿り着くとさすがにホッとしました。白虎隊士はここで一旦休憩し、水路に従って更に約一〇〇メートル進み、飯盛山自刃の地に辿り着きました。そして、血気盛んな若者たちは今後の進退に関し激論になるのです。唯一



白虎隊の「義」後世に

白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊士 飯沼貞吉、山川健次郎子孫ら会設立 事業継続中

- ・会津飯盛山 白虎隊自刃の地
説明板設置 (2011.9)
- ・会津飯盛山 白虎隊が辿った道
彫刻石設置 (2012.9)
- ・下関市功山寺 萬骨塔
山川健次郎霊石安置 (2011.10)
- ・長崎市ししとき川
日下義雄顕彰板 (2013.1)
- ・恩愛の碑 (白虎隊士飯沼貞吉・長州藩士楢崎頼)
設置 (山口県美祿市 2016.10)
- ・「白虎隊士飯沼貞吉の回生」
出版 (2012.12)
- ・会津若松市善龍寺
大窪山墓地案内板設置 (2013.9)
- ・会津若松市河東町強清水
白虎隊戦闘の地説明板設置 (2014.9)
- ・会津若松市内に白虎隊士生家跡碑設置
篠田儀三郎・飯沼貞吉 (2015.9)
津川喜代美・井深茂太郎 (2016.9)
石山虎之助・西川勝太郎・安達藤三郎 (2017.9)
白虎隊士生家案内図設置 (2017.9)
- ・戊辰150年会津藩子孫隊として出陣 (2018.9)
- ・喜多方市塩川町に
飯沼貞吉ゆかりの地碑設置 (2019.9)
- ・会津若松市に
白虎隊出陣と終焉の地記念碑設置 (2022.9)

会員
募集中

年会費3,000円

郵便振込先 00100-1-616556 白虎隊の会

會 白虎隊の会

http://byakkotai.club

会津支部
連絡先: 090-3750-2234
森川まで

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14
事務局 / 飯沼方 電話03-3429-6652 FAX03-3429-6654

生残った飯沼貞吉は「甲怒り、乙罵り、激論以てこれ争う」と書き残しました・合掌。

六 むすび

史跡造りは根気のいる仕事です。コロナが始まって三年。何をしようにも制約が出ます。でも、いずれ後世の人が「あれ！こんなところに看板がある。白虎隊ってドラマの出来事だと思っていたらリアルなんだ」などというシーンが現れるかも知れない。そんなことを思いながら次の記念碑の構想を練るのも楽しいものです。

(白虎隊の会・本会会員)



戊辰殉難者春季祭典の挙行



公益財団法人会津弔霊義会の主催により、令和五年四月二十三日到会津若松市内の長命寺戦死者墓前と阿弥陀寺本堂にて、二十四日には飯盛山白虎隊士墓前で執り行われました。

新型コロナウイルス禍の間は規模を縮小して弔霊義会役員のみでの参列。今年は四年振りに来賓を交えて例年通りの規模となりました。飯盛山墓所では会津高校生徒による白虎隊剣舞が復活。桜は早々に散っており新緑らしい春季祭典となりました。

(会津会事務局)